

7 番 瀬 戸

受付番号3番、議員番号7番、瀬戸伸二。

「耕作放棄地、遊休農地の活用は」。

農業従事者の高齢化に伴い、耕作放棄地や遊休農地等が増えている。スマートICの開通により来町者の増加が見込まれる中、町の景観が損なわれることはあってはならない。

そこで、耕作放棄地や遊休農地をどのように再生するかが課題となる。

また、コロナ禍の中、ホームステイ期間中には、都市部の人々はベランダや庭で家庭菜園を楽しんだ等の情報も寄せられている。都心に近い当町において、農業を通して町の関係人口の増加につながるチャンスと考え、以下質問する。

1、町は、耕作放棄地や遊休農地の活用をどのように考えているか。

2、町は、平成25年よりオリーブの栽培を推奨しているが、現在の山北のオリーブ栽培の状況はどのように理解しているか。

3、JAかながわ西湘では、レモンの栽培を2市8町で推奨しているが、町はJAかながわ西湘と協力して、レモン栽培を推奨する意思はあるか。

4、オリーブやレモンは鳥獣被害に強いと言われているが、鳥獣被害の報告もされており、農業生産者にとっては最大の頭痛の種である。現在、町では、広域で認証ジビエに取り組む予定と聞いているが、推進状況は。

以上です。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、瀬戸伸二議員から「耕作放棄地、遊休農地の活用は」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「町は、耕作放棄地や遊休農地の活用をどのように考えるか」についてであります。これは、令和2年3月議会で山崎政司議員が御質問された内容と重複しますが、町では農業委員会と連携して耕作放棄地や遊休農地の情報を掘り起こし、また利用調査を行い所有者自ら耕作をするよう促し、農地が持つ多面的な機能を発揮できるよう取り組んでおります。

次に、2点目の御質問の「町は平成25年より、オリーブの栽培を推奨して

いるが、現在の山北のオリーブ栽培の状況をどのように理解しているか」についてであります。町では、平成25年度からオリーブの苗木をあっせんしており、平成29年度までに当初目標としていた1,000本を超え、1,200本の苗木を植栽しましたが、オリーブは根が浅く風に弱いため、台風などの強風にあおられたことで落果したり、倒木の被害が発生したりしており、ここ2年間は出荷量が芳しくない状況であります。

今後は、強風対策として補強材のあっせんなどにより収穫量の確保を考えてまいります。

次に、3点目の御質問の「JAかながわ西湘では、レモンの栽培を2市8町で推奨しているが、町はJAかながわ西湘と協力してレモン栽培を推奨する意思はあるか」についてであります。昨年度、かながわ西湘農業協同組合から本町に提出された「令和2年度農林施策・予算要望」において、地域農業振興対策として「湘南潮彩レモン」の栽培普及についての連携強化と支援の御要望をいただいております。

町では、この要望を受け、具体的な普及計画の作成を依頼するなど、かながわ西湘農業協同組合との連携をこれまで以上に図っていきたいと考えております。

次に、4点目の御質問の「オリーブやレモンは鳥獣被害に強いと言われているが、鳥獣被害の報告もされており、農業生産者にとって最大の頭痛の種である。現在、町では広域で認証ジビエに取り組む予定と聞いているが、進捗状況は」についてであります。ジビエの広域での取組として、令和2年1月から「足柄上地区食肉処理施設整備検討会」を立ち上げ、近隣の1市5町で検討を続けております。最近、松田町から「ジビエ処理加工施設設立事業」の予算を計上したと情報提供があり、他市町との共同設置を考えているとのことですので、町で計画内容を精査して、広域での連携についても検討してまいります。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 1点目の質問なんです。今年度の施政方針の中で、遊休農地整備補助金制度をモデル事業として創設し遊休農地の解消を図りますというふうな形で答弁されております。この件に関して、今、現状のこの補助金制度はどのよ

うに活用をされているのか聞かせてください。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 今のところ、1点御相談がありまして、まだちゃんと申請は挙がってきてないんですけども、農協さんの野菜クラブのほうからにんにくをやりたいということで、利用圏を設定して土地を借りてますので、そこが今候補地となっておりますので、ただ、多分まだ申請等は挙がってきていないです。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 じゃあ、今のところ1件のみという形でよろしいでしょうか。ほかに計画が立てられているところはあるのでしょうか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 今のところ、聞いているのはその1点で、今後また出てくる形と、まだ分からないような状況です。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 これも中間地の関係で耕作放棄地の発生を防ぐとして集落協定に基づき、継続して農地の耕作管理等を行う集落に対して、引き続き支援してまいりますというような答弁されてますけれど、こちらのほうについては、どうでしょうか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 中山間の支援事業なんですけど、今年から新しい対策が、5年目が始まるので、今、現在、受付を行っているところです。

ただ、今聞いている情報ですと、今までは6集落の募集があったんですけど、現在のところちょっと2集落がどうしても共同でやっていく等のことは、かなり難しいということで、4集落になるような状況になってきております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 どうしても高齢者の農業従事という形で、農業に携わる人が減っているということになります。

これ、4月のタウンニュースの状況で、里山再生で山北活性化という記事が載ってました。かながわ地域振興会発足ということで瀬戸恒彦さんが理事長という形になっております。

その中の記事を見ると、里山再生は、食・運動・社会参加を三位一体で推

進し交流人口の増加を図ると、この交流人口の問題なんですけれど、例えば、こういう方々の力を借りて、または力を貸してという形で交流人口を増やすことによって、山北の農業がもっと発展するのではないかと私は考えるんですが、町長のお考えはいかがでしょう。

議
町

長 町長。

長 おっしゃるように高齢化していると、それから、次をやってくださる方が少ないと、あるいは亡くなっているというようなことで、おっしゃるように関係人口、交流人口の皆さんに助けていただくというのは、非常に私としてもそういうふうな方向に行きたいなと、それによって山北町が見直されて、また山北町と関係ができた人たちが定期的に山北町を訪れていただいて、そういうふうに農業に親しんでいただくというのは非常に大事なことだと思いますので、例えば、茶園であるとか、あるいはミカンであるとか、あるいはキウイであるとか、そういう様々なものも、オリーブもそうですけどありますので、そういったものが関係人口、あるいは交流人口の中で増えていくと、また興味を持っていただくという、非常に、今逆に言えば、このコロナによって非常に見直されてる分野でありますので、そういったことをやっていきたいというふうには思っております。

それと、質問にはなかったんですけども、そもそも論として、私が今考えておりますのは、やはりこれからの日本の農業の在り方というのは、今まで支えていただいた高齢者の農業から、もっと機械化せざるを得ないだろうと、例えば、ドローンを使ったりスマホを使ったり、あるいはもっと大きく面積を機械化してやっていくというような、そういった方向に変わらなければ、なかなか難しいだろうというふうに思っておりますので、そういった方面からも次の農業ということを意識しながら機械化、あるいはそういった最新技術をどうやって使うか、そういったようなことを研究していきたいというふうに思っております。

議

長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬

戸 先ほどの遊休農地補助金制度についてなんですけれど、例えば、当町以外の方から、NPO等から、その申請があった場合、それは受け付けられますか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 この補助制度は、一応、遊休農地を利用するという事で利用権を設定するのが条件になっていますので、そういうことがクリアできれば可能になると思われま

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 先ほども申しましたけど、いずれにしても、山北町内だけでは農業の再生は難しいと私は考えま

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、いろいろな段階を踏んでいかなければいけないというふうに思っています。

山北町、非常に面積は広いんですけども急峻な農地が多いということで、なかなか平らなところが少ない。まあ、そういった意味では機械化もしにくい様々な要因がございます。また鳥獣被害も非常に多岐にわたっております。イノシシと鹿だけでなく、ハクビシンであるとか、様々な鳥であるとか、そういったような被害もありますので、そういったことを頭に入れながらやっていきたいというふうに思っております。

特に、私なんかも、よく農業新聞等で見ますけども、田舎暮らしに憧れて田舎に来てみたんだけど、結局、イノシシと鹿にもう耐えられなくて農産物ができないというので撤退するような方も地方には結構いらっしゃるということで聞いております。それだけ、やはり現実と、実際に移住して来られる方、あるいは希望を持って来られる方に、かなりギャップがあるということ

を痛切に感じておりますので、そういった意味では、いきなり来られるのではなくて、そういったことを経験しながら、そういう関係人口とか、そういったようなことの交流人口の中で、こういうところですよということが分かった中で移住していただくなり、あるいは、また、こちらに協力していただくなり、そういったことができればありがたいなというふうに思っております。

- 議 長 瀬戸伸二議員。
- 7 番 瀬 戸 里山の文章を読んだ中で、里山再生は集落の再生だというような文言が載ってました。読むと、やっぱり再生という地域との協働から始まり、そこで定住に発達するという部分があるようなんです。できれば、山北もそういう形の定住対策を進めることも可能かなと私は考えるんですが、いかがでしょうか。
- 議 長 町長。
- 町 長 おっしゃるように、もし山北に興味を持って、そして山北を盛り上げていただくというような方がいらっしゃれば、今おっしゃるような地域との連携というのは、必須の問題であります。また、それが一番難しい問題だというふうに思っておりますので、そういったことの中で、やはり地域に溶け込んでいただいて、地域の課題と、そして、また自分たちの目標というんですか、もし協力していただく方の理想というのもございますでしょうから、そういった意味のコミュニケーションというんですか、そういったものがコラボレーションができれば、ありがたいなというふうに思っております。
- 議 長 瀬戸伸二議員。
- 7 番 瀬 戸 2番目の、オリーブのほうに移させていただきます。
- 第5次総合計画の中では、オリーブの栽培について、意欲ある農家への支援を実施しますというような文言が載っています。
- 31年度の施政の中で、町長の中では、オリーブ栽培の普及計画と制度を見直し、農産物の加工価値を図るというような形で述べられております。
- ちょっとオリーブに対する町のスタンスが変わっているのかどうかお聞かせください。
- 議 長 町長。
- 町 長 去年、おとしでしたか、小豆島のほうにも行かせていただいて、そういったようなオリーブの現状を見させていただきました。
- やはり、我々が考えているオリーブの、オリーブ油というようなものについては、相当ハードルが高いなというふうに感じました。量もそうですし、そして品質、エクストラバージンのようなものを作っていく、不可能ということではないんですけども、量とかそういったものを加工していくというこ

とは非常にハードルが高いなというふうには思いましたけども、一方では、オリーブ関係のものが、非常に多種多様になっているというようなことも感じました。オリーブの搾った搾りかすを、例えば魚にやって、そういった養殖をしたり、あるいは、豚とか何かに与えて、そういった肉としてやったり、あるいは、またオリーブ茶として葉っぱのほう加工したりというようなことが、いろいろな分野に使えるということで、町としては、そういったような多種多様なものを視野に入れながら、量的には、どうしてもほかのところにはかなわないというふうには思っておりますので、そういった意味では山北らしいオリーブ栽培というのができれば、この関係している二宮とか、そういった湘南オリーブの皆さんと一緒に悩みながら進めていきたいというふうには思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 確かに、100年以上の歴史のある小豆島と当町とではちょっと違いがあり過ぎると思いますけれど、一番最初に考えなければいけないのは、オリーブの広がり、町にどういうふうに広めるかということが重要かと思うんですが、ただ、今現在十数件しか栽培してないということで、オリーブの広がりが見えないわけなんですよね。今後、オリーブを広げていく計画等がありますか。

議 長 町長。

町 長 私も、大体いろんなことをやる前に、オリーブにしても、レモンにしてもそうですけど、まず自分でやってみると、実際どのぐらい難しいのかそういうふうなことを実際やりました。そうしましたら、やはり風に弱い、それから、いろいろな問題で1回目のやつはほとんど枯れてしまったというのがあります。今2回目のやっていますけど、その中で、品種は自家受粉しないということで、他家受粉ですから2種類以上植えなきゃいけない。一番、ミッションという種類が非常に強いということで、これが一番主流になってくるのではないかなというふうには思っています。そういう中で、ルッカとか、そういったような交配樹にどういうふうにやっていくのか、その辺が、もう少し絞った中で最初は6種類ぐらいやったんですけども、今は2つぐらいに絞らないと難しいかなというふうには思っております。

そういった中で、今、広がりということをおっしゃいましたけども、今、

町の中でも、ぐみの木公園あたりに植えております。そういった中で、皆さんの目に触れるようなところにオリーブの木を植えたり、また、実がなるようにしながら、そして、興味を持っていただきながら生産者を増やしていきたいというふうに思っておりますし、そして特に、かつてはミカン、あるいはキウイというのも山北の主要な農作物でございましたけれども、そういったものに代わるものとして、オリーブというのが、特に鳥獣被害に今のところは強いんだらうというふうに思っておりますけども、やはり、特に鹿、イノシシよりか鹿のほうがやはり葉っぱ等を食べる可能性がありますので、そういった意味では、非常にそういったような対策も含めながら皆さんに理解していただいて、オリーブを山北町の農業の一端にしていきたいというふうに思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 今後も、オリーブについて続けていくという、その広がりなんですよ、一番の問題が。どういうふうに農業者に広がっていくか、これが一番の問題ではなかろうかと思うんです。

レモンと絡めて、ちょっとお話しさせていただきますけれど、JAのほうにレモンについて聞いたところ、やはり鳥獣被害に強いと、それと片浦レモンで実績があると、するとミカンで培った市場販売のノウハウがあると、そういうような話をされておりました。要するに、以前、町長がおっしゃったように、山北はミカンの町だ、キウイフルーツが栽培されていると、そういうような代名詞的なものをつけるような栽培が必要ではなかろうかと思うんです。その辺をどのようにお考えいただけますでしょうか。

議 長 町長。

町 長 かつては、みんな、そういうやり方で農協も指導して、ミカンが駄目になって、急激に例えばキウイフルーツに転換したり、そういったようなことをやってました。それ自体が別に間違ってるということは思いませんけども、しかし、今の現状を見ますと、どちらかというと直売所、道の駅とかそういったものを使って、一年中、多種多様な農産物を出荷するというような傾向がだんだんだんだん増えている。また、農家の方も単一作物でリスクを負うよりも、いろいろな台風であるとか、そういった鳥獣被害等を含めると、多

種多様な農産物、あるいは果実というようなことがあるということの中で、特にこのオリーブに関しては、やはり広がり非常にあるというふうを考えております。

ですから、量でいうとどうしても負けてしまう、九州とか、小豆島とかそういうところには負けてしまいますけども、しかし、オリーブ油を使ったり、オリーブの加工品を使ってレストランとか、そういったものを育てていくという、そういったようなことには非常に有効ではないかというふうに思っておりますので、これから新東名のスマートインター等ができたときに、山北町の特産として、オリーブ油を使ったいろいろな料理であるとか、そういったものも考えられるのではないかというふうに思っておりますので、そういったような広がりを見ながらオリーブというのは捉えてきて、単一作物としてやるには、やはり小豆島を見たときには、相当、やはりハードルが高いなというふうに思いましたので、あのレベルを目指すのは、ちょっと山北では無理ではないかというふうには思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 作物を栽培する上で、本文にも書きましたけれど、農家として鳥獣被害、これが頭痛の種となっております。

ジビエについて、少し進展しているというような答弁になっておりますけれど、鳥獣の駆除、イコール、ジビエ、それリンクした考えでよろしいのでしょうか、それとも駆除は駆除、ジビエはジビエという考えが正しいのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 駆除、イコール、ジビエというふうにはならないというふうには私は思っております。

もちろん、駆除の仕方がジビエに該当するようとり方、例えば、特にわなで捕獲したものについてはジビエというふうには考えられますけど、しかし、銃とか、そういったようなものを使った場合には、ちょっとジビエには該当しないだろう無理であろうというふうに思っておりますので、要するに駆除そのものが、駆除したものがジビエになるというのは、ちょっと違うんじゃないかなというふうに考えております。

また、ジビエに対しても、やはり、今、山北町、この神奈川県の中では、非常に多くのイノシシ、鹿等が駆除したり、また現実に被害に遭っておりますけれども、これは全国的なことでございますので、そういうような中から、そういったような問題を考えていくときに、やはりジビエに関しては、単に、例えばイノシシの肉とか鹿の肉ということよりも、その品質のほうはるかに大事で、やはり高品質のジビエを作らなければ、結局、作ったけども売れない、あるいは誰も欲しがらないというようなことになってしまいますので、そうでなくて、やはり皆さんから使ってみたい、あるいは買ってみたいと言われるようなジビエにしなければいけないというふうに思っておりますので、そういった意味では、駆除とジビエとはイコールではないというふうに思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 農家にとって、やっぱり鳥獣の駆除ということが一番の課題になってこようかと思えます。それで、ジビエのほうも進んでいるということも聞いておりますが、今、じゃあ農家にとってやらなければならないことは生産物の保護かという形になっております。そういう部分で、今電気柵補助金がおいてるということを知っておりますが、ソーラーパネルを含む本体の3分の1の補助、それと柵や土留めに4分の3の補助という話を聞いております。

今後、この農産物の保護を考えた場合、ソーラーパネルを含む本体の補助金を上げてもらったほうが農家にとってはいいのではなかろうかと思うんですが、その辺の御検討はされておりますでしょうか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 今のところは、瀬戸議員が言われた、電気柵について3分の1、ソーラーの部材については4分の3、最大で10万円までの補助というふうになっております。農家さんも最近、電気柵がだんだん大きくなってきているような話も、受付を見てみると、電気柵なんか多くなってきていますので、今日いただいた御意見を参考に、もう少し考えていきたいと思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 鳥獣害被害っていうのはもう待ったなしの状況までできています。自分の庭にさえ入ってくるような状況になっておりますので、ぜひとも、その辺は御

検討いただきたいと思います。

それと、最後になりますが、やっぱり遊休農地の補助金とかそういう部分での町からの発信がちょっと弱いのかなと私は考えております。

先日、山高の校長先生と意見交換する場があったんですが、5つの力の中で、伝える力という部分をおっしゃっておられました。町から町民に伝える力という部分を、ぜひとも活用していただいている、単なる広報に載せればいいというわけではなくして、町はこういうことをやっているから理解してくれというような、伝えてほしい部分がたくさんあると思いますので、ぜひとも、その辺を活用していただきたいと思います。

議
町

長 町長。

長 おっしゃるように、特に、このコロナを、アフターコロナというんですか、そういうような中で、オンラインであるとか、SNSというのが、さらに、あるいは、キャッシュレスというのが増えるというふうに感じておりますので、広告媒体も今までのパンフレットとか、そういったことでなくて、やはり、オンラインを使ったあるいはネットを使った配信ということで、今、ユーザーを使おうとか、あるいは、そういう別のものを使おうかというようなことを検討しておりますけども、その中でも、特に、山北町のこういう観光で若干有効ではないかと思うのは、いろいろな、例えば、河村城址の跡のところに、例えばQRコードをいっぱいつけて、自分の関心があるところは、そこでクリックしていただいて、中身を見ていただくというようなことはどうだろうかとか、そういうような様々なことに発信していきたいというふうに思っておりますので、インスタグラムもそうですし、あるいは、様々なものが、今ほとんどの方がそういったようなネットを通じて情報を得るというようなことを考えておりますので、そういったことを主眼に、一番山北町に合った広告媒体を考えていきたいというふうに思っております。